

取締役会実効性評価サマリ

取締役会の実効性評価を毎期実施し、前期の評価で認識された課題への取り組みを確認するとともに、来期に向けた課題を抽出し、取締役会実効性向上のPDCAサイクルを重視しています。2022年3月期の取締役会の実効性評価の結果を踏まえ、取締役会および取締役会事務局は、2023年3月期、以下の点に取り組みました。

2022年3月期実効性評価結果における課題認識	取り組み内容	2023年3月期アンケートでの評価
(1) 現行の執行体制・統治体制を踏まえ、取締役の数、社内取締役の役割・比率等について、高い次元で実質的な実効性を整理し、継続的に検討	<ul style="list-style-type: none"> 2022年5月及び10月のガバナンス委員会にて、経験を踏まえた機関設計等ガバナンスについて社外役員にヒアリングの上、当社執行体制及び機関設計を議論 	<p>大多数（社外役員も大多数）が肯定的に評価。当社のガバナンスの在り方につき現状肯定でなく、その将来改革の選択肢を複眼的に議論しているとの意見、取締役会の実効性は確保されているとの意見あり。</p>
(2) 取締役会の運営を向上させる取り組みの継続	<ul style="list-style-type: none"> 取締役会の運営を向上させる取り組みを継続し、取締役会付議・報告基準の適切な運用とモニタリング、書面決議・書面報告の更なる活用、基準額に充たずとも当社経営に重要な影響を及ぼす案件の付議・報告要否の慎重な検討を推進 	<p>改正された取締役会付議・報告基準の運用により審議時間が増加したとの意見、社外役員への情報提供の質と量が増加しているとの意見、事前説明も十分時間がとられており、取締役会での議論が充実しているとの意見、資料配布、事前説明、本会議とも、効率性、実効性が上がっている等の意見あり。</p>

▶ 2023年3月期の実効性評価

アンケート結果を踏まえ、2023年2月開催の社外役員会議及びガバナンス委員会、同年3月開催の経営会議での議論を経て、同年4月開催の取締役会で決議しました。



2023年1月実施
取締役14名・監査役5名

設問ごとに
5段階評価＋
前期との比較評価＋
コメント

- 取締役会の運営については、モニタリング機能を尊重した運営になっており、当社の健全なガバナンスを意識した経営の意識が表れていると考える。社外取締役・監査役の意見を踏まえた議事運営を評価する。
- 個別案件に加えて、全社的な取り組み・経営課題についてのトピックを取り上げて報告される等、取締役会で議論するにふさわしい事項の選定に工夫がされている。
- 取締役の知見の多様性、意見表明のオープンさ、提案に対する執行側の対応とも本邦企業としてはトップクラスと思う。取締役に就任以降ガバナンスの質は着実に進化。
- 取締役会は健全に機能し、効率良く運営されている。
- 当社取締役会の実効性は確保されており、議論内容に加え、準備の観点含め、他社比較でも良い。現行の仕組みの中で非常に上手く機能している。

①取締役の人数・多様性、社内取締役・社外取締役の比率、機関設計についての継続的な検討

- 取締役会の更なる審議の充実化を目指し、取締役の人数・多様性、社内取締役・社外取締役の比率を議論。
- ガバナンス委員会で機関設計についての議論を継続。

②取締役会審議の充実化と効率化を推進する取り組みの検討

- 重要事案の審議の充実化と効率化を両立する取り組みの検討。
- 取締役会審議充実化と運営効率化のための、事前ブリーフィングを含めた取締役会スケジュール及び運営の継続的な改善。

2023年3月期の取締役会実効性評価については、自己評価を実施

上記の内容を総括した結果、当社取締役会は、2023年3月期の取締役会の実効性は適切に確保されていると判断